

公共施設の再編に関する意見交換会 概要報告

日 時	平成30年11月2日(金)18時30分～20時00分																										
場 所	皆瀬総合支所 2階会議室B・C																										
対 象 地 区	皆瀬地域																										
参 加 者	19 人																										
	内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代				
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		
		皆瀬地域	17	15	2	1	1		4	4		3	1	2	2	2		2	2		3	3		2	2		
		そ の 他	2	2	0	0			0			0			2	2		0			0			0			
	計	19	17	2	1	1	0	4	4	0	3	1	2	4	4	0	2	2	0	3	3	0	2	2	0		
市 出 席 者	湯沢市公共施設アドバイザー、 総務部長、企画課長、企画政策班長、担当																										
報 道 機 関	2社																										

概 要

開 会																											
あいさつ	<p>総務部長</p> 																										
説 明	<p>＜テーマ：集会施設＞（企画課）</p> <p>① 集会施設の現状と課題 ② 市民討議会の意見概要 ③ 個別施設の方向性（検討案）</p>  																										

情報提供

集会系施設のあり方を考える（湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏）



質疑応答、
意見交換



- ・人口が少ない地域に関しては利用率が悪くても交通の便に配慮した計画にしてほしい。
 ⇒(アドバイザー)公共施設を見直す際の大きなポイントは、足の確保である。現状の足の確保が十分でない場合は、施設を見直す際に同時に考えていかなければならない。利用率が悪い理由は、施設で行う市の事業が少ないためだと思っている。貸館としての活用は限られる。施設を活用して、地域の課題を解決するための事業を作り、多くの地域の皆さんに参加してもらうことによって施設を使い切るという取組をたくさん行わなければならない。市側の管理体制に問題があるのであれば、管理運営方法についても考えなければならないので、そういったことを方向性に示している。
- ・意見交換の場で、なぜアドバイザーが発言するのか。市の職員が答えるべき。市職員全員が共通の意識を持って取り組まなければこの計画は実現しない。また、意見交換会への参加を呼び掛けてもお年寄りには集まることはできない。大事な計画であるので、細かい集落単位で行わなければならないのではないかと。
 ⇒(アドバイザー)公共施設の見直しをするなかで、庁内会議に参加し、少しずつ職員の意識改革について取り組んでいる。この意見交換会は市民対行政の構図で行うものではなく、市民の皆さん同士で施設の在り方を話し合ってもらおう場として開催している。市の提案に対してどう思うか皆さん同士で話し合ってもらい、発言してほしい。最終的にプランがまとまった際は細かい単位での説明も必要になると思うが、今回は、大きな方向性の議論を進めるに当たり、ざっくばらんに話し合ってもらおう場としたい。

質疑応答、
意見交換

・皆瀬生涯学習センターは避難所に指定されているが、耐震性に課題があるというのは問題でないか。

⇒(市)皆瀬生涯学習センターは耐震性に課題があるため、今後改修・建替を行うこととなるが、その際は、皆瀬庁舎や周辺の老朽化している施設と一緒に考える必要がある。地域の皆さんの活動の場として、施設・機能がどうあったらいいかを皆さんと話し合いながら検討していくこととしている。

・皆瀬庁舎などの施設の改修、建替について、実現の可能性は低いのではないか。

⇒(市)引き続き公共施設として残すべき施設については、耐震性を確保しなければならない。財政的な問題もあるため、優先順位をつけて年次計画で対応していきたい。庁舎は防災上の拠点となるため、市民の安全確保の面からも優先順位が高いと考える。ただし、どういう施設にするのかは、行政だけでなく、市民の皆さんと一緒に考えていきたいので、意見をお聞かせいただければと思う。

⇒(アドバイザー)庁舎、生涯学習センターともに耐震上の課題がある場合、それぞれを改修するという考え方もあるが、部屋の利用率を考えたときに、複合化するという考えもある。市の提案は「複合化」である。地域の施設を面的に見渡して、どうあったらいいかを考えなければならないが、行政が勝手に絵を描くのではなく、具体的なプランを考える際は、地域の皆さんも参加してもらいたいと思う。今日は、その出発点として、市が示した方向性に対する意見を伺いたい。

・皆瀬生涯学習センターで行っている事業について、書道教室とあるが、それ以外にもあるのではないか。

⇒(市)団体が行なっている事業や、貸館としての利用もある。また、図書室としての機能も備えている。

・交通の便や、冬季の除排雪も整っている時代に、地区センターは必要なのか。皆瀬地域の住民は10km以上離れていても、15分以上かかっても皆瀬庁舎近辺まで集まってきている。湯沢地域については、住民票の写しの申請や手続きで市役所本庁舎に行っても大して大変ではないはず。そういった恵まれた環境の中で、地区センターがあることが理解できない。

⇒(アドバイザー)貴重な提案があったと思う。生涯学習センターを中心にしたまちづくりは御理解いただいているが、その下の地区センターは必要ないと言った意見もあって当然のことである。この意見に対して、他の皆さんはどう考えるかお伺いする。

・市の社会教育委員の立場として、生涯学習課が所管する施設の評価を行なっている。社会教育、生涯教育の拠点の場として公民館、地区センターは必要だと思う。利用者が少なくなくても生涯教育のために必要な施設と考えているため、機能は継続するという方向性について理解できる。地域自治組織に携わる立場としても、自治組織が地域づくりの母体となるため、その拠点は必要と考える。自治組織が行う事業は公民館事業と遜色ないため、市と自治組織がお互いに計画しながら取り組んでいければと思う。皆瀬庁舎と皆瀬生涯学習センターについては、利便性を兼ね備えた、身の丈にあった規模の複合施設を新設してほしいと思う。

・前に発言した方と同じ意見である。予算が無いとばかり聞かされているため、ほとんどの人があきらめている。皆瀬庁舎と皆瀬生涯学習センターについては、しっかり対応してもらいたい。

⇒(アドバイザー)現状、施設が多くある中では難しいかもしれないが、予算を全体的に圧縮していくなかで、予算を確保することとなる。また、建物だけでなく中身をよくしていかなければいけないので、今後は施設を有効に利用してもらうためのソフト面にお金をかける必要があると考える。行政側は事業を組み立て、少なくとも稼働率40～50%にしてもらいたい。ソフト面の対策を行政として考えなければ建物ばかりあっても利用してくれる人は増えない。

	概 要
<p>質疑応答、意見交換</p>	<p>・地区センターについて、老朽化して耐震性の無い建物は廃止でよいと思う。新しい建物は避難所としての活用もあるので残すべきと考える。</p> <p>⇒(アドバイザー) 避難所としては、市が指定した避難所だけでは賅いきれないことがある。これから公共施設を管理運営するに当たっては、指定避難所以外でも急場を凌ぐ仕組みを作らなければならないため、防災上の検討が必要である。新耐震基準で建築した建物については、耐用年数を超えても、使用できる間はしっかり保全していかなければならない。耐震上課題がある施設については、避難した方の安全面からも閉じていくことになると思う。</p> <p>・町内会・集落単位の施設については町内会などの地域に任せる考えは必要であり、これが地区の中心的役割になると思う。ただし生涯学習センターや地区センターは一本化していいと思う。施設の名前や規模に捉われず、地域にあった、人が集まりやすい機能を一番に考えていくべきではないか。地域の課題を話し合い、解決して、地域が活性化していくことを実現するためには、地域単位の集会所と、町内会・集落単位の施設があれば良いと思う。ただし、ハコモノだけあればよいわけではないので、地域の人が集まるためのソフト面の充実については市の職員が関わってもらいたい。地域の活性化について、長い目で見て施設再編してもらいたい。</p> <p>⇒(アドバイザー) 全国にはお年寄りにとっての立ち寄り場所となるようなサロンのような使われ方をしている例があるが、市が管理しては難しい。地域の方が管理運営を行なうことで、ある程度自由に、柔軟な対応が可能となる。使い勝手のよい施設になることで、地域が活性化され、地域の特産物を使ったコミュニティビジネスを行うなど、稼ぐための施設としても考えられるのではないかなと思う。</p> <p>・計画期間について、施設の方向性が決まっても実行するのは数十年先になるのではないかな。財政の見通しについて伺いたい。</p> <p>⇒(市) 公共施設等総合管理計画では、2040年までに延床面積を45%削減するという目標を立てている。財政面では人口減少が進み市税収入の増は見込めない中、地方交付税も減少傾向であり厳しい状態は続くが、地域に必要な施設については守っていく。そのための計画を策定していることになる。</p> <p>⇒(アドバイザー) 延床面積についてはただ単に減らせばいいわけではない。市民の皆さんの生活に欠かせない施設、子どもたちの教育のために必要な施設は残すことを前提に、市民サービスを低下しないように必要な機能と建物を分けて判断していくことが重要である。学校については、空き教室や、土・日の空き時間を活用すれば有効利用できる。これからはそのような考えを持って再編していく時代に来ていると思う。</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>市の提案について概ね肯定していただけたと捉えてよいかな。コンパクトで多機能な施設の再配置を進めていくことが皆瀬地域の課題であると思う。行政側としては地域のまちづくりをどうサポートしたらよいのか、支援の仕組みを作っていかなければならない。地域の皆さんと一緒にまちづくりを進めていければよいと思う。</p>
<p>閉 会</p>	<p>20時00分終了</p>